

日本全国の赤十字飛行隊

熊本支隊

文・写真 阿部 正実

2月11日(建国記念日)に飛行隊の訓練が行われる熊本支隊を訪ねた。クラブハウスは、熊本空港の小型機駐機場場に隣接し、並んだ2台のトレーラーをウッドデッキでつなぐ機能的な造りだ。



クラブハウスでのブリーフィング

クラブハウスで、その日の訓練について新永支隊長が説明していた。「大規模地震が発生し、長崎空港および周辺が孤立。長崎支隊から救援物資を届けてほしいと要請があり、これに応じます。また、天候不良を想定しIFRでの運用とします。」

さっそく情報調整担当の**菅聖隊員**(51歳、陸単、計器、JAPA 理事=会社経営)を中心に、気象やトラフィックの情報を確認。フライトコーディネーター担当の**三好恒紀副支隊長**(62歳、陸単、ヘリ、計器、教証、JAPA・GA 委員=パラから自作機まで、飛ぶものは何でも好き)が、隊員の現状技量や機体を検討し、機長を選任し機体を指示。この日の地上支援担当**原田茂隊員**(61歳、陸単2000時間=元自衛隊ATC 管制官)は、救援物資の調達、陸送について説明する。



熊本空港小型機駐機場場で出発前の点検



いざ熊本空港を出発

航路決定やブリーフィングを行い、11時15分長崎空港に向け離陸、菅機長と新永副操縦士との息はぴったり、手順に沿った慎重なフライトだ。IFRなので遠回りだが、45分後に長崎に到着し訓練を終了した。



長崎支隊に支援物資を渡す

この日参加できなかった**松村徹隊員**、**木之内均隊員**も含め、総勢6人で赤十字飛行隊の活動を担っている。また、この支隊では4人が特定操縦技能審査員だ。

同隊は、阪神淡路大震災や東日本大震災でもミルクなど支援物資を届けた実績がある。**新永隆一支隊長**(52歳、陸単、ヘリ、計器=飛行隊副隊長・会社経営)によれば、常に「自分たちで完結できる支援」を考えていると言う。また、「支隊では失敗を恥じずに皆に伝える雰囲気があり、これが事故を未然に防ぐ環境になっている」との言葉も頼もしい。日赤熊本県支部や県からの要請の受付など、対外的な調整は支隊長が窓口を務める。地上で活躍するGROUND TEAMも創設され、これは、飛行隊活動に賛同した企業や個人が参加し、食料や医薬品など物資の提供や輸送などを行う組織だ。これらの運営については一般社団法人くまもと飛行隊を設立し、事務手続きや連絡調整に当たっている。

協力企業：九建グループ、FrontierVision、自然と未来(株)
熊本支隊の充実したHP：<http://rcs-kumamoto.com/>



無事訓練を終えた隊員たち

次回は長崎支隊です。